

## The 6<sup>th</sup> Asia-Australasian Conference on Composite Materials 出張報告書

作成日：2008-09/27

文責：構造工学研究室 2008 年度 M2 高垣宜史

### 学会詳細

学会名：The 6<sup>th</sup> Asia-Australasian Conference on Composite Materials (ACCM6)

学会主催：The Committee on Composite Materials, The Society of Materials Science (JSMS)

開催時期：23-26<sup>th</sup> Sept. 2008

開催場所：Kumamoto Univ., Kyusyu, Japan

研究題目：Fatigue and impact properties of plain-woven CFRP modified with Micro Fibrillated Cellulose

研究著者：Norifumi TAKAGAKI, Kazuya OKUBO, Toru FUJII

発表者：Norifumi TAKAGAKI

発表形式：Poster (Oral：3min.)

学会 HP：<http://compo.jsms.jp/accm6/index.html>

私は、2008 年 9 月 23 日～26 日に熊本大学にて開催された『The 6<sup>th</sup> Asia-Australasian Conference on Composite Materials』という複合材料に関する国際学会に、当研究室エジプト人留学生の Mohamed Hassan さんと当研究室韓国人 Dr.の金さんと共に参加してきました。そこで、同じ分野を研究している技術者・研究者の研究発表を聴講し刺激を受けると同時に、私も修士 1 回生での研究成果をそこでポスター発表してきました。

炭素繊維によって強化されたプラスチック材料 (Carbon Fiber reinforced Plastics) に Filler 材として、セルロースを微細化した天然材料を掛け合わせ、材料の耐久性を評価した内容を発表し、その可能性について多くの方々から貴重なご意見を頂きました。私の発表を含め、これから世に出されようとする材料の紹介発表も多くありました。私の研究と重ね合わせながら聴講していると、私の研究活動の不足点が改めて再認識でき、それは残りの学生生活の宿題となりました。

学会中は、発表・質疑応答から日常会話まですべて英語で行い、また研究室の外に出て活発な意見交換・著名な先生方からの叱咤激励を受けながら、自分の成長を感じる事が出来ました。もし当研究室の院生になればこのような貴重な経験ができると共に有意義な時間を過ごせると思います。この経験は就職後も必ず活きると感じています。

最後になりましたが、このような素晴らしい経験を与えて頂いた藤井先生、大窪先生をはじめ、同志社大学及び当研究室関係者の皆様に深く感謝致します。

《以下写真に続く》



会場の様子



Short presentation での様子



Poster presentation の様子



学会終了後



Conference Tour に参加し熊本城の前で



阿蘇山噴火口付近での集合写真

(以上)